

□議員名：吉永美子

1 高齢者や障害者への支援について

| | |
|----|---|
| 論点 | 2022年3月議会で、地域見守り協定を13事業者と結んでいるにもかかわらず連携をしておらず、生きたものとなっていないことを指摘していたが、その後の対応を聞く。 |
| 回答 | 具体的な相互連携はまだ行えていない。今後、情報提供は行っていきたいと考えている。 |

| | |
|----|---|
| 論点 | 地域見守り協定の認定事業所にステッカーを貼って、市民に分かるようにするように提案していたが、その後の検討状況を聞く。 |
| 回答 | ホームページやLINEを多くの市民に使っていただこうと、市全体を挙げて取り組んでいるところなので、そういったところも視野に入れ、市民に広げていく手法として、議員提案のステッカーも含めて引き続き検討していきたいと考えている。 |

| | |
|----|---|
| 論点 | 2022年3月議会で提言した、視覚障害者などのために導入すべき音声コード、ユニボイスの活用について検討状況を聞く。 |
| 回答 | 新たに来年3月策定予定の第5次山陽小野田市障害者計画の概要版に音声コードを付記する予定である。また、障害福祉のしおりについても、改定等の時期に合わせ、音声コードを付記する予定である。議員提案の選挙の投票所入場券については、視覚障害者支援につながるように、選挙管理委員会事務局と協議又は調整していきたい。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | オストメイトが使用する排泄管理支援用具の給付基準額は長年増額されていない。実態に合っていると考えているのか聞く。 |
| 回答 | 昨今の物価高騰を受け、市では排泄管理支援用具を含む日常生活用具に係る給付基準額見直しの必要性を考慮するため、現在、県内市町等に対して、給付基準額に関する調査を行っている。今後、こうした調査の結果等を踏まえ、給付基準額と実際に必要な金額との比較検討を行っていきたい。 |

2 デフリンピックへの支援について

| | |
|----|---|
| 論点 | 聴覚障害者の五輪と呼ばれるデフリンピック大会が2025年に日本で開催される。そこで、本年3月議会でデフリンピックへの支援について質問したが、その後の検討状況を聞く。 |
| 回答 | デフリンピックの開催について、これまで国や県等から協力要請はなかったが、このたび改めて山口県に確認したところ、前回と同様に、国や東京都等からは何も情報提供がされていないという回答である。今後も情報収集に努め、前回と同様に国等関係機関から協力要請があった場合には本市の対応を検討していきたい。 |

| | |
|----|---|
| 論点 | 3月に質問した際に、「ホストタウンの募集があった場合には関係部署等と情報共有や連携を行い、対応を検討していきたいと考えている」との答弁を得ていたが、考えに変わりはないか。 |
| 回答 | たしかに、3月にそのような回答をした。もちろんそういった要請があった場合には、関係部署とは調整していきたいと考えている。 |

3 ふるさと納税の推進について

| | |
|----|---|
| 論点 | ふるさと納税の寄附額は年々増加しており、まちづくりへの活用に期待が持てる。今後どのようにメニューを拡充していくのか、その予定はあるのか聞く。 |
| 回答 | 本市のサポート寄附の用途については、山陽小野田市寄附条例において、総合計画に掲げる五つの基本目標を寄附金の用途として設定している。その基本目標を中心にした用途ということで見直す予定は今のところない。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | ふるさと納税をするほうが取り組みやすい方法として、大型商業施設で現地決済型のふるさと納税を進めるよう提案する。 |
| 回答 | 現地決済型ふるさと納税は、市をPRするツールとしても非常に有効なものであると認識している。議員提案の大型商業施設、店舗等を含め飲食店あるいは宿泊施設、体験型返礼品を提供する事業者等で利用することができる現地決済型ふるさと納税の導入の仕組みについては、関係機関等々との調整があるので、一つの手法として検 |

| | |
|--|-------|
| | 討したい。 |
|--|-------|

| | |
|----|---|
| 論点 | 4月から活動予定の地域運営組織（RMO）を応援するため、ふるさと納税をする方が選択する活用先をRMOに指定できるようにすることを提案する。 |
| 回答 | 本市においては、地域運営組織はまだ設立の検討をしているところで、直接的な寄附についてはもうしばらく様子を見てほしいと思う。 |

4 第9回現代ガラス展について

| | |
|----|---|
| 論点 | 今回の市内開催入場者数は3,748人となり、大変少ない状況である。総括について聞く。 |
| 回答 | コロナ禍ということもあり、5年ぶりの開催となった今回展においては、スポンサー枠の拡大やサポーターの大幅な増加を図ったほか、山口東京理科大学の学生を対象に無料で入れるデジタルチケットの配布やインスタグラムでのカウントダウン告知等々を行った。このような来場を促すPRに努めたが、指摘のとおり過去展に比べ少ない入場者数となった。要因としては、イベント自体の周知が行き届かなかったこと、昨今の物価高を背景に入場料金を500円から800円に引き上げたことが考えられる。 |

| | |
|----|---|
| 論点 | 来場するきっかけづくりとして、チラシに番号を付与し、抽選で何かが当たるかもしれないというワクワク感を持たせてはどうか。 |
| 回答 | 議員の大変貴重な提案は、今回の第9回展を総括する中で、実行委員会や推進委員の会議も開くようにしているので、次回の10回展に向けての方向性を生み出す検討の材料としたい。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | 3月に開かれる東京展をいかに成功させるのか、市長の意気込みを聞く。 |
| 回答 | 東京の特別作品展は本市においても極めてまれなことで、本当に貴重なタイミングだと思っている。しっかりいろんな手法を使ってPRしていかないともったいないという思いもある。多くの市民が関 |

| | |
|--|--|
| | <p>東周辺に在住の知り合いの方に一言言ってもらうことによって、山陽小野田市のいいところを改めて気づいていただくとともに、知り合いに広げてもらうという口コミも有効な手段と考える。。</p> |
|--|--|